

施設紹介① 静岡がんセンター感染症内科の取り組み

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科部長 倉井華子

本シリーズでは感染症に携わる医師や看護師、薬剤師、検査技師が院内でどのような仕事を担っているのか、感染症対策や抗菌薬適正使用活動をどのように進めているかをご紹介します。1回目は静岡がんセンター感染症内科よりお届けします

■ 経緯

前任の大曲貴夫先生(現 国立国際医療研究センター国際感染症センター長)が2005年に国内のがんセンターで初めて感染症内科の研修プログラムを開始しました。これまでに15名以上の卒業生を排出し、卒業生は全国の病院で感染症内科立ち上げに携わっています。また県内外より多くの短期研修を受け入れています。2022年度はスタッフ2名、フェロー1名、3か月から半年間の研修生2名の体制です。

■ 院内での役割

がん患者は抗がん剤や手術などの治療、点滴ルートやカテーテルをはじめとしたデバイスなど医療関連感染症のハイリスクの集団です。入退院を繰り返す点、抗菌薬使用などから耐性菌獲得や伝播のリスクもあります。感染症や耐性菌を起こさないための予防、感染症をおこした場合も速やかに適切に治し、がん治療に戻すことが私たちの役割です。院内全体を見渡す視点、個々の患者に向き合う視点を両方兼ね備え、さらには地域へ貢献できることを目標としています。

■ 感染症内科の仕事

①院内コンサルテーション

各診療科から症例の相談を頂きます。熱の原因がわからない、重症感染症を疑う、血液培養から菌が検出された、適切な抗菌薬選択のアドバイスが欲しい、治療期間の相談など様々です。過去のカルテ記録をすべて閲覧し、ベッドサイドで問診と診察を行い、グラム染色や培養結果を確認し、主担当医にお返事しています。その後も毎日フォローを続け、抗菌薬終了後、病態が安定するまでサポートします。

②院外からの相談

数は多くないですが、まれな感染症について他院から相談を頂きます。最近では梅毒の相談件数が増えています。梅毒はコロナ渦においても全国的にも増えている疾患であり、注意が必要です(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/1626-disease-based/ha/syphilis/idsc/idwr-sokuhou/7816-syphilis-data.html>)。そのほか寄生虫疾患、輸入感染症、ダニ咬傷などの相談を頂いています。気になる症例があればお

声がけください。

③抗菌薬適正使用活動

次号の薬剤師が詳しく書きますが、毎日薬剤師が抗緑膿菌活性を持つ抗菌薬やバンコマイシンなど投与量設計が必要な抗菌薬使用例を拾い上げ、医師とともにカルテを見ながら検討しています。使用理由が書かれていない、培養がとられていないカルテをみたら処方医に連絡をしています。培養結果が出た後、狭域化できる症例にも推奨抗菌薬を提示しています。

院内の採用抗菌薬を最小限にしています。適正使用の一つに採用抗菌薬数を限定し常に評価することがあります。当院ではカルバペネム系抗菌薬、キノロン系抗菌薬はそれぞれ1種類のみ、抗MRSA薬もバンコマイシンとテイコプラニンのみの採用を維持しています。

④感染対策

MRSAや多剤耐性グラム陰性桿菌、新型コロナウイルス感染症、結核など、通常の標準予防策以上の感染対策が必要な事例には必要な感染対策をアドバイスし、必要事例には診療を行います。ここ数年は新型コロナウイルス感染症やバンコマイシン耐性腸球菌の対策に追われています。

⑤職員健康管理

体調不良時の診察、インフルエンザをはじめとしたワクチン接種なども私たちの仕事です。すべての職員が麻疹、風疹、水痘、ムンプスに対してワクチンを2回以上接種してから当院に就職していただいています。また新型コロナウイルス感染症の流行が始まってからは家族の体調不良時の検査なども行っています。

⑥患者ワクチン

移植後の患者ではすべての獲得免疫が低下し、小児期と同じような多数のワクチン接種が必要となります。不活化ワクチンや生ワクチンを患者の状態に合わせ接種します。脾臓摘出後の肺炎球菌ワクチン、冬季のインフルエンザワクチン接種も私たちが行っています。

⑦教育

院内職員や県内研修医などを対象にした感染症の教育活動も私たちの重要な仕事ととらえています。近隣医療機関から講演会や研修医の症例検討会の依頼を頂くことも多くあります。またオンラインを用いて定期的な勉強会も開催しています。ご興味を持たれた方はご連絡ください。

■ おわりに

今回の感染防止対策加算の見直しは、周囲の医療機関や医師会と協力しながら地域の感染症診療や対策レベルアップのチャンスととらえています。私たちの仕事を知っていただき、一緒にできることを考えていければと思います。症例で困った場合はいつでもご相談ください(連絡先: mail: h.kurai@scchr.jp 電話 055-989-5222)